

近畿学校保健学会通信

№63

平成元年5月31日発行
近畿学校保健学会事務所
〒640 和歌山市九番丁27
和歌山県立医科大学衛生学教室内
TEL 0734-26-8324 (直通)
振替口座 大阪4-107021番

第36回 近畿学校保健学会案内

(下記のように、学会を開催します。関心のある方は、どなたでも参加できます)

主催 近畿学校保健学会 協賛 兵庫県医師会
後援 兵庫県教育委員会 兵庫県歯科医師会
神戸市教育委員会 兵庫県薬剤師会

会 長 住 野 公 昭 (神戸大学医学部教授)
事務局 長 三 尾 隆 弥 (神戸大学医学部)

〒650 神戸市中央区楠町7丁目
神戸大学医学部公衆衛生学教室内
第36回近畿学校保健学会事務局
TEL (078)341-7451内線3320 FAX (078)371-6833
銀行口座 太陽神戸銀行 (神戸駅前支店)
口座番号 (普通) 313-3491329

日 時 平成元年6月24日(土) 9:00~17:00
会 場 兵庫県民会館 (次頁図参照)
神戸市中央区下山手通4丁目16 (Tel 078-321-2131)

日 程

9:00	9:30	12:04	12:15	13:05	13:20	14:00	14:50	15:00	16:50	17:00	18:30
受	一般講演	(昼食)	評議員会	総会	特別講演	シンポジウム	懇親会				
付	第一会場 第二会場 第三会場	第三会場 (11Fホール)	第一会場 (9Fホール)	第一会場 (9Fホール)	第一会場 (9Fホール)	第一会場 (9Fホール)	第三会場 (11Fホール)				

会 費 正 会 員：年会費 3,000円 (ただし既納者は不要)
当日会員：参加費として 2,000円 (資料代を含む)
学生当日会員：参加費として 1,000円 (資料代を含む)
評 議 員：評議員会場にて昼食を用意致しますので代金 1,500円を頂きます。
懇親会費：4,000円

会場附近案内図



J R三宮・阪急三宮・阪神三宮
各駅より北西へ徒歩 13 分

J R新神戸駅より
地下鉄山手駅下車すぐ

運営についてのご連絡

○参加者へ

1. 受 付

- (1) 会費既納者……受付で府県名、氏名をお申し出いただき名札をお受け取り下さい。
- (2) 会費未納者……受付で記入票を受け取り、氏名、住所、所属をご記入のうえ、会費 3,000 円をお納め下さい。
- (3) 当日会員……当日会員受付で記入票を受け取り、氏名、住所、所属をご記入のうえ、会費 2,000 円（学生 1,000 円）をお納め下さい。

2. そ の 他

- (1) 名札に所属、氏名を御記入いただき、会場では必ず着用して下さい。
- (2) 昼食は、県民会館内の食堂および周辺の食堂をご利用下さい。
- (3) 懇親会のお申し込み(4,000円)を受け付けておりますので、お誘い合わせの上ご参加下さい。
- (4) 評議員会ご出席の方は、昼食代1,500円を別途受付けでお支払の上、弁当引換券をお受け取り下さい。
- (5) 駐車場は県民会館駐車場がありますが、少数台数の上高額です。なるべく電車をご利用下さい。

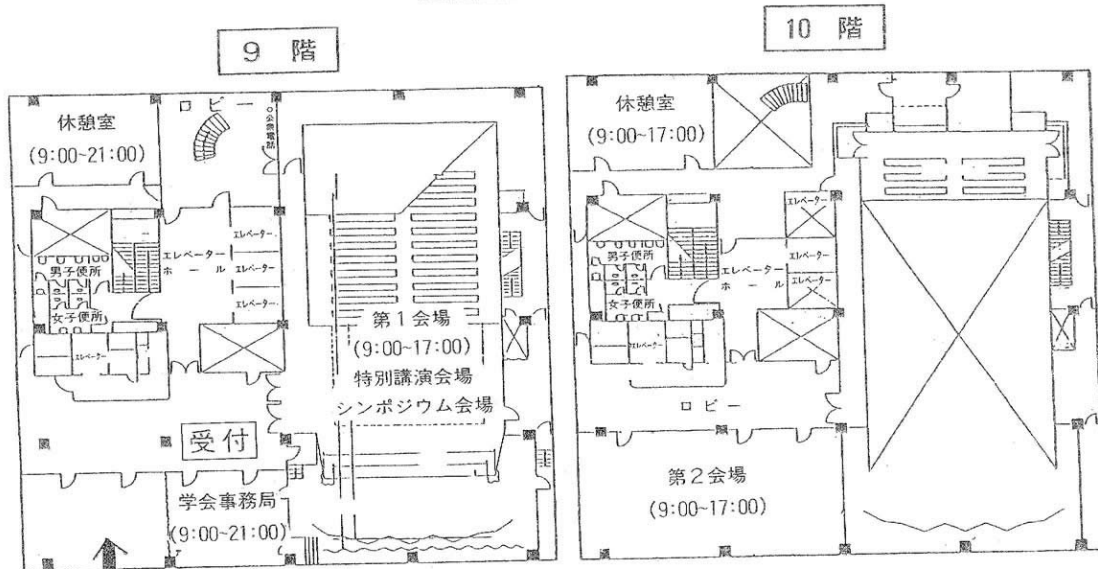
○発表者へ

1. 前演者の口演が始まると同時に、各会場前方の次演者席に必ず着席して下さい。
2. 発表時間は9分間、討論時間は5分以内です。時間の厳守をお願いします。
8分で1回、9分で2回ベルを鳴らします。
3. 各会場とも、発表は講演予稿集を用い、スライドは使用できません。配布資料のある場合は、発表のすくなくとも30分前迄に各会場受け付けに提出して下さい。(配布資料は100部ご用意下さい)
また、写真等回覧する場合は二部ご用意下さい。

○座長へ

1. 前座長の登壇後直ちに各会場前方の次座長席にご着席下さい。
2. 受持時間内の進行は座長にご一任しますが、1題あたり14分以内で進行されますようお願いいたします。
3. 例年通り、学会通信用の座長のまとめをお願い致します。

会場案内図



来賓・名誉会員

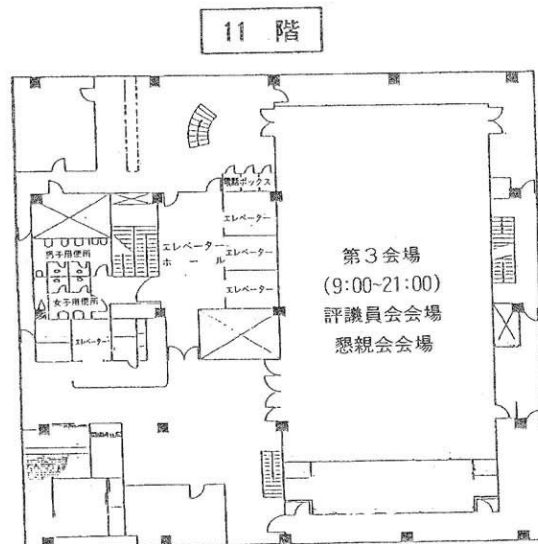
特別講演講師

シンポジスト

控室

(9:00-21:00)

()内は使用可能時間



第36回近畿学校保健学会プログラム

一午前の部一

一般講演（講演9分、討議5分）

第1会場（9Fホール）

（9：30～9：58）

座長 住野 公昭（神戸大医学部・公衆衛生）

101 養護への発達（学）的アプローチ

○山城正之（神戸大教育学部・養護教育）

102 日常生活における衣服内温度の変動幅にみられる季節差

○荒木 勉（兵庫教育大 生活・健康系）、上田博之（大阪信愛女学院短大 生活文化）

（9：58～10：40）

座長 後藤 英二（大阪教育大）

103 女子学生のスクリーニングテストに於ける留意点—CMIのII領域について—

○大江米次郎、勝山信房（夙川学院短大）

104 女子学生の居住別におけるCMIの15年間の推移

○瀬戸 進（大谷大）、川畑愛義（日本生活医研）、吉村磯次郎、庄司博延
高木徳子（京都女子大）、小島広政（京都産業大教養部）

105 女子大学生の日常生活でのエネルギー消費量

○後和美朝、渡辺完児、上林久雄（大阪教育大・保健）、小島広政（京都産業大）

（10：40～11：22）

座長 松岡勇二（和歌山大教育学部・保健体育）

106 矯正施設収容児の性格類型に関する一考察

○川口俊彦（京都府立桃山高校）、金井秀子（京都教育大・学校保健）
小林豊生（京都府立医大精神科）

107 養護学校高等部生徒の体力テストに関する検討

○姫野由美子（滋賀大附属養護）、林 正（滋賀大教育学部）
森 忠繁（岡山県環境保健センター）

108 養護教諭のパソコン活用に対する関心と状況

○長谷川ちゆ子（西脇市立西脇小学校）

（11：22～12：04）

座長 林 正（滋賀大教育学部）

109 「四測・視力の統計と通知票」プログラム利用者の背景

○横尾能範、徐 力、戴 革（神戸大教育学部・養護教育）

110 日本語ワープロ文豪15Dによる四測データの表計算処理について（II）

—オリジナルソフト公開後の反響と今後の課題—

○田中祐子、青山泰子、仁科奈保美、奥田幸子、橋野静子、松田京子、岡村美津子
渡辺桂子、浜田小夜子、横尾能範（神戸市教育工学研究会学校保健情報処理部会）

111 これからの肥満指導を考える—パソコンを導入して—

○小池真理子（神戸市立兵庫大開小学校）

第2会場 (10F 福の間)

(9:30~10:26)

座長 原田 碩三(兵庫教育大学・幼児教育)

- 201 学童の足に関する実験的研究(第1報)―研究の主旨と内容について―
○荻原一輝(荻原整形外科病院)、田中洋一、川畑徹朗、南 哲(神戸大教育学部)
- 202 学童の足に関する実験的研究(第2報)
―幼稚園児の通園靴の形状と足の特性との関係について―
○田中洋一、川畑徹朗、南 哲(神戸大教育学部)、荻原一輝(荻原整形外科病院)
- 203 足底部の形態と機能に関する基礎的研究
1. 大学生の接地足底面積
○高橋裕子(兵庫県立姫路短大)、竹内宏一(奈良教育大)
- 204 足底部の形態と機能に関する基礎的研究
2. 大学生にみる足下体重心の動揺
○竹内宏一(奈良教育大)、高橋裕子(兵庫県立姫路短大)

(10:26~11:08)

座長 竹内 宏一(奈良教育大)

- 205 下肢長の実測値と推計値との比較検討
○白石龍生、成田五穂子、楠本久美子、小島美幸(大阪教育大)
小西博喜(京都工繊大)、松本健治、武田真太郎(和歌山医大・衛生)
- 206 下肢長の発育促進現象とその背景の要因分析
○小西博喜(京都工繊大)、白石龍生(大阪教育大)、森岡郁晴、黒田基嗣、吉田義昭
松本健治、宮下和久、武田真太郎(和歌山医大・衛生)
- 207 カトマンズ近郊幼稚園児(ネパール)と神戸近郊幼稚園児(日本)の身体発育比較
○内山三郎(神戸大医学部・医学研究国際交流センター)
倉掛妙子、勝山信房(夙川学院短大)

(11:08~12:04)

座長 山本 公弘(奈良女子大)

- 208 中学校保健体育科における「喫煙と健康」に関する教育
○川畑徹朗、南 哲、田中洋一(神戸大教育学部)
- 209 AIDS に関する調査研究―学生・高校生の知的理解と関心度について―
○後藤 章、上延富久治、後和美朝(大阪教育大・保健)、光藤雅康(大阪教育大・養護)
萱村俊哉(大阪市大生活科学部)
- 210 養護教諭志望短期大学生の看護臨床実習内容に関する調査
○古田肇子、美馬 信、南口公恵(大阪女子短期大学)
- 211 米国某教員養成系大学における保健関係の教授要目(Syllabus)に関する考察(その2)
2. 個人と地域社会の健康(PERSONAL AND COMMUNITY HEALTH)
○竹内宏一(奈良教育大)、高橋裕子(兵庫県立姫路短大)

第3会場 (11F 特別会議室)

(9:30~9:58)

座長 美崎 教正(神戸大教養部)

- 301 神戸市における若年者(5才~19才)の死亡推移
○山本良二、住野公昭(神戸大医学部・公衆衛生)
- 302 学校保健管理(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)に関する調査・研究
○成山公一、南口公恵(大阪女子短大)、後藤英二(大阪教育大)

(9:58~10:40)

座長 島田 照三(島田クリニック)

- 303 滋賀医科大学小児科を低身長を主訴に来院した患児の検討
○山脇 保、戸祭由子、大矢紀昭、島田司巳(滋賀医大・小児科)
- 304 心因性視力障害を呈した一不登校児童の箱庭療法の過程について
○小林豊生(京都府立医大・精神科)、金井秀子(京都教育大・学校保健)
- 305 バイオフィードバック法による脳波の自己制御について
○清水教永、松浦義昌、坪内伸司、中神 勝(大阪府立大総合科学部)

(10:40~11:22)

座長 金井 秀子(京都教育大・学校保健)

- 306 思春期前期における自立への働きかけ(第4報)
定期健康診断の事後措置としての保健指導の試みーその2ー
○五十嵐裕子(神戸大教育学部・附属明石中学校)、友久久雄(京都教育大)
- 307 学校精神保健ケース・コンサルテーションの試み(1)
○今出悦子(西宮市立西宮高校)
- 308 小学生における食・生活行動と不定愁訴に関する研究
○平野登志子(華頂短大)、川畑愛義、松原ヒサエ(日本生活医学研)、吉村磯次郎
庄司博延、高木徳子(京都女子大)、瀬戸 進(大谷大)

(11:22~12:04)

座長 吉田 浩重(神戸芸工大)

- 309 小学生におけるアレルギー自覚症状とその原因について
○藤田大輔、二宮ルリ子、小泉直子、塚本利之(兵庫医大・公衆衛生)
- 310 スキー実習に関する保健学的研究(2)
○加藤 弘、松岡勇二(和歌山大教育学部)
- 311 高校生のクラブ活動による尿成分の変動
○二宮ルリ子、小泉直子、藤田大輔、塚本利之(兵庫医大・公衆衛生)

—午後の部—

特別講演（14：00～14：50）（第1会場：9Fホール）

座 長 住野 公昭（神戸大学教授）

小児期の成人病予防

—プライマリ・ケアの立場からみた最近の子供—

講 師 石垣 四郎（兵庫県医師会学校保健委員会委員長）

成人病とよばれる疾患のうち、心筋梗塞と脳卒中は日本人死因の2位、3位を占めている。これらふたつの疾患の基盤となっている動脈硬化症が、既に小児期から始まっていることが注目されている。

動脈硬化を増悪させる危険因子としては、1.高脂血症、2.高血圧、3.家族性因子、4.肥満、5.喫煙、6.ストレス、7.糖尿病、などがあげられる。これらの危険因子と子供たちのからだが、どのように、かかわりあいをもっているか、それぞれの因子について検討してみよう。

兵庫県医師会学校保健委員会では県下の小、中、高校生について実態調査を実施した。得られた成績について考察を加えたい。

結論として、成人病の若年化を予防するためには、一次予防として、健全な生活習慣を身につけるための健康教育が重要である。二次予防として、危険因子を有する小児を早期に発見し、指導するシステムを確立することである。

シンポジウム（15：00～16：50）（第1会場：9Fホール）

ウェルネス・ムーブメントとしての学校保健

座 長 美崎 教正（神戸大学教授）

1. ウェルネスとは

柳 敏晴（神戸YMCAウェルネスセンター所長）

2. 新しい町づくりの中での保健教育

中村 慶行（神戸市立向洋小学校校長）

3. 人工の街における学校保健—ウェルネスをめざして—

明瀬 好子（神戸大教育学部附属住吉中学校）

4. 養護教諭養成課程におけるウェルネス教育

近藤文子（兵庫女子短期大学助教授）

最近、健康教育が重視され、トータル・ヘルスケアに向け、多くの関係者が努力を続けておられるが、学校教育現場においてはまだ疾病・傷害予防教育が主流を占めていると言っても過言ではない状況にあるといえます。

すべての人間が、今よりは「もっとよい生活」「もっとよい生」があることに気づき、その実現のために「共に生きる心と能力を養い」、「共に生きる社会の実現」に向けて、一人一人が努力する過程を大切にしたいと思います。

いま、このような考え方と実行力を持った人間の育成に向けて、学校保健を学校教育の中に位置づける必要性が高まってきたといえます。

ここに、生涯にわたるトータル・ヘルスケアとしてのウェルネス・ムーブメントについて、共に考え、これを新しい健康教育として学校教育への導入を考えてみましょう。

今回のシンポジウムの試みは、このたび全く新しく神戸市が造成した六甲アイランドという人工の社会をベースに、幼稚園、小学校、中学校が同時に開校され、教育方針も他に類をみない斬新なものが試みられており、そこにおける学校保健も地域ぐるみの保健（地域保健）との連携の中で推進されている。このユニークな健康教育の実態を紹介しながら、今後の新しい学校保健としてのウェルネス・ムーブメントについて討議してみたいと考えました。

懇親会（17：00～18：30）

第3会場：11F特別会議室 立食パーティ 会費 4,000円

（お誘い合わせの上多数御参加下さい。）

平成元年度会費納入について

第28回近畿学校保健学会総会において学会会則が改正され、昭和57年度より恒久会員制を設けることになりました。当分の間、本会の目的に賛同され会員として会費を納入して頂きますと、年2～3回学会通信及び年次学会の案内をお送り致します。又、平成元年度年次学会（於神戸）での研究発表は共同発表者も含めて会員でないとできませんので、会員を希望される方及び発表者（共同発表者も含めて）は平成元年度会費3,000円を学会事務所まで納入されますようお願い致します。

近畿学校保健学会総会案内

会則第16条により下記のように学会総会を開催しますので、会員各位の参加を要請します。

近畿学校保健学会会員各位 殿

学 会 幹 事 長

記

1. 日 時 平成元年6月24日(土) 13:20~14:00
2. 場 所 兵庫県民会館9階ホール(第1会場)
3. 議 案
 - (1) 会務報告
 - (2) 昭和63年度会計決算について
 - (3) 平成元年度予算案について
 - (4) 名誉会員の推挙について
 - (5) 次期(第37回)学会開催地および会長について
 - (6) その他

以 上

第36回日本学校保健学会の案内

下記のとおり開催されますので、関心のある方は、どなたでも参加できますから近畿学校保健学会と同様積極的に御参加下さい。

会 長 高 石 昌 弘

会 期 1989年10月27日(金)・28日(土)

会 場 日本都市センター(東京都千代田区平河町)

学会事務局 〒108 東京都港区白金台4-6-1

国立公衆衛生院母性小児衛生学部内

第36回日本学校保健学会事務局 ☎03-441-7111 内線298,294

永井豊太郎先生の御逝去を悼む

昭和63年11月24日に、長く本学会の名誉会員であった永井豊太郎先生が88才の天寿を全うされ逝去されましたことは、誠に哀痛の極みである。

永井豊太郎先生は明治32年8月14日のお生まれで、大正13年東京帝国大学工学部応用化学科の御卒業で、大阪市立生活科学研究所の水質課長をつとめられ、のちに滋賀県立衛生研究所長の要職にあられ、水質研究の権威として有名である。先生の御生れの場所が大阪市西区土佐堀通りであったことから、水と最も深くかゝわってこられたことと考えられる。

先生は昭和34年から昭和53年まで天理大学の非常勤講師、衛生学の御担当として筆者と色々な面で公私にわたり御指導、御交誼を賜りました。いつも大学での講義では目に沁みるような真白な白衣をきちと身につけられた御姿が印象的で鮮に残っている。衛生学が必修であったためいつも学生が教室で満席で先生の熱心な講義を受講していた日々がつい最近のような気がする。筆者は当時体育学部長であったため、学問と同時に、色々な面で御指導を受けたことを忘れることができない。

先生には特に御願をして、昭和42年第14回近畿学校保健学会の学会長をおつとめ頂いていろいろと御一緒に学会開催に努めたこともまた大きな想出として残っている。先生の柔和で人の心にいつも暖い風を吹きこむような御人柄は誰にでも信頼と尊敬の念を抱かされるものがあつた。

近畿学校保健学会の今後の発展のためにも先生はかけがえのない御人であつただけに、無念の気持ちが一杯である。

謹んで先生の御逝去をいたみ、衷心より御冥福を御祈りする。

(橘 重美 記)